

教育民生委員会所管事務調査報告書

【はじめに】

国では、力強い日本経済を立て直すための成長戦略の柱として、世界に誇る魅力あふれる観光立国の実現に向け施策を推進し、観光に関わる様々な産業が日本経済の成長の重要な一翼を担っていかなければならないとしている。

観光ニーズの社会的変化により、個人旅行が主流になり、ツアー形式から着地型観光として、地域の観光資源に触れ、そこでしか味わえない体験を求める傾向になってきている。

亀山市では、「亀山市観光振興ビジョン（以下観光振興ビジョン）」を平成21年度から28年度までの8年間を計画期間として策定し、観光誘致と住民生活の調和を目指した「まちづくり観光」を掲げて今日まで観光政策を進めてきた。

平成29年度の観光振興ビジョンの更新を見据え、市内の観光資源を発掘・有効活用し、「観光」が、人を育て交流を育み、まちの発展に繋がる仕組みづくりを進める必要がある。

そこで、教育民生委員会ではこうした背景を踏まえ、「まちづくり観光について」をテーマに設定し、亀山市の観光資源の再認識を行うとともに、情報発信や行政の関わりかたについて調査・研究を行ったのでその結果をここに報告する。

【現状把握】

当市の観光資源やイベント、情報発信の状況、観光への取り組み状況を把握するため、市民文化部観光振興室に資料を求め、聞き取りを行った。

1. 亀山市の観光の取り組みについて

(1) 亀山市では、観光振興ビジョンに基づき「まちづくり観光」の考え方を基本に施策・事業に取り組んでいる。まちづくり観光とは、地域の住民が主体となって地域資源、定住環境、来訪者満足度の3つの要素を調和させる『総合的なまちづくり』としての取り組みを意味するもので、その結果が観光振興につながるという考え方である。なお、観光振興ビジョンは、平成29年に更新の予定である。

(2) 観光の所管は、市民文化部観光振興室となっており、商・工業、まちなみ・文化財保存の所管部署とは別組織である。現在、県外各地へ観光・物産のPRに出かける場合は、関係部署と協力して行っている。

2. 市内の観光資源やイベント、情報発信について

(1) 自然・景勝地、文化財・史跡、物産・名物等の様々な観光資源について、季節毎に分類して説明を受けた。また、観光資源に対する市の関わり方について聞き取りを行った。市内には、資源はたくさんあるが、点在しており、それらをつなげる取り組みがされていない。大きな観光資源である「関宿」は文化財の保存から始まったが、観光資源に変わりつつあり、今は過渡期である。

- (2) イベントについて、市主催のものや実行委員会、各種団体等の主催のものなど多数開催されており、時期によっては、複数のイベントが同時開催となるなど、連携が図れていない。
- (3) 情報発信については、観光振興室の担当者が観光協会と連携しながら、様々な場所でPR活動を行っているが、まだまだ亀山市への呼び込みが弱い。
- (4) 亀山市を訪れる観光客のリピート率やアンケート調査などによる観光客の実態把握は十分にされていない。
- (5) 市全体として、観光と商業の連携ができていない。亀山市では観光業を生業にしている商業者はほとんどいない。
- (6) 観光客への「おもてなし」や観光地としての魅力を高めるための「しかけづくり」が不十分である。
- (7) 市内には多くの民俗芸能が存在し、貴重な資源であるが、保存・継承には、後継者不足など課題が多い。

【行政視察】

調査・研究テーマに沿った先進地として、重伝建選定地区をはじめ、まちの観光資源を活用してまちづくり観光を推進している自治体として福井県小浜市、若狭町、京都府南丹市を平成27年7月14日から16日にかけて視察した。

1. 小浜市

水産業と地場産業の「若狭ぬりばし」を中心に交通の結節点として栄えてきた。市長の公約「観光によるまちづくり」に基づき政策が実行され、観光が「人との交流による産業」と「まちづくり」の基本政策になっている。

現在、おばま観光局と若狭おばま観光協会、市商工観光課による官民一体の取り組みを展開している。

市では、市職員こそシティセールスをする最先端に立つべきとの考えに基づいて、若手職員に対し、観光の担当者による観光推進に関する講義を行ったうえ、観光担当者が観光PR等の出向宣伝に出かける際には、当番制で同行させるという取り組みをしている。

また、若い女性を「観光もてなし推進員」に任命したり、主婦層の意見の取り入れなど新たな発想を取り込んでいる。さらに、総務省の「地域おこし協力隊」を活用し、都市目線での小浜市の観光資源の発掘と観光プランの作成を行っている。

さらに、フィルムコミッションにも取り組んでおり、商工観光課が中心となって、市内の観光資源が映画撮影等に活用されるよう情報発信に努めている。

2. 若狭町

若狭の国の玄関口として交通の要衝であり、伊勢の国の玄関口の関宿と共通点を感じた。このまちでは「まちづくり型観光」というコンセプトで、まちづくりの主体は住民であり「熊川宿まちづくりマスタープラン」を策定し、まちづくり

に取り組んでいる。

古い建物をただ保存するのではなく、住みやすいモデルハウスに改修して宿泊施設とすることで観光客への魅力アップを図っていた。今後は、過疎化などの課題に対する施策が必要とのことであった。

農家民宿、農業体験などのプランも用意しているが、課題は多い。

3. 南丹市

4つの町が合併により誕生した市で、美山地区には鉄道も高速道路もなく、冬場は豪雪地帯となり、限界集落であるが、観光と産業が密接に連携した政策を行っており、「かやぶきの里地域」は、住民合意100%をもって重伝建の選定を受け、現在、年間70万人もの観光客が訪れている。その中でも、台湾でのPR活動に力を入れており、京都に近い立地条件でありながら豪雪の世界を体験できることから多くの観光客を呼び込んでいる。元町営施設であった「河鹿荘」は、今は指定管理者による運営となっているが、指定管理者には地元の業者を優先し、雇用の場を提供している。

名産品にはジビエ、地元ブランドの美山牛乳があり、その販売手法にも一工夫して、雇用の場に繋げ、貴重な収入源となっている。

【市民との意見交換会】

平成27年7月22日に（一社）亀山市観光協会、亀山商工会議所、NPO東海道関宿、関宿案内ボランティアの会、石水溪観光協会、亀山宿語り部の会の代表者9名と「亀山市の観光の課題・問題点について」、「観光関係団体及び行政のそれぞれの役割と連携について」、「まちづくり観光をビジネスに繋げる取り組みと情報発信について」をテーマに意見交換会を行った。

〔意見交換会で出された主な意見〕

1. 亀山市の観光の課題・問題点について

- (1) 市内には観光資源がたくさんあるが点在しており、線、面に繋がりにくいの
が問題。また、観光資源が磨かれていない。新しいものも生まれにくい、観
光にも結び付かない。
- (2) 観光客をはじめ、来訪者を受け入れる受け皿が出来ていない。公衆トイレは
老朽化しており、数も不足している。さらに、市内には、観光案内やトイレ
の案内表示等の看板が少ない。観光マップにもわかりやすい表示をするとよ
い。
- (3) 観光客はたくさん市内に立ち寄るが、亀山市の土産物は数が少なく、また、
観光を生業にしている商業者も少ない。そのため、食事をとる場所等、おも
てなしをする場所があまりないので、亀山市での滞在時間は短く、経済効果
にはつながっていない。
- (4) 東海自然歩道等の登山道の整備等に携わる人材が不足しており、後継者の確
保が難しくなっている。

- (5) 市では、「亀山市観光ビジョン」に基づいて観光政策を進めており、その内容は素晴らしいと思うが、実際に進んでいないと感じる。「まちづくり観光」を掲げているが、市民に理解され、浸透しているのかわからない。市として観光をどうして行きたいのか明確に示されていない。
- (6) 観光を所管する部署は、市民文化部であるが、観光と商工業はもっと連携させ、市の活性化につなげるようにするほうが良いのではないか。
- (7) 観光協会に若い人材を登用したり、観光の専門家を育てていく必要があるのではないか。
- (8) 関ロッジは観光の一つに位置づけられているが休館となった。
- (9) 関宿は、生活をしながらというのが基本で、その部分は重要視する点ではあるが、今後は、賑やかなまちを継続するよう方向転換していく必要がある。

2. 観光関係団体及び行政のそれぞれの役割と連携について

- (1) 公共施設に関わる市の関係部署は多岐にわたり、横断的に協力できる体制が整っていない。一本化できないのか。
- (2) 観光に携わる各団体の役割を明確にさせることが必要で、市は連絡調整をするだけでなく、具体的な事例を示し、目標を定め、課題等の話し合いの場を設定することが必要。
- (3) 市の予算は単年度であるため、地域において数年にまたがる計画を実行しにくい。
- (4) 市の方で、観光客の駐車場や歩道の整備を進めるべき。
- (5) 年間、多数のイベントが開催されるが、市が一括して調整を取ってほしい。

3. まちづくり観光をビジネスに繋げる取り組みと情報発信について

- (1) 商工会議所では、片山神社から能褒野町神社までを観光ルートとして位置づけ、観光事業に取り組んでいく。行政でしかできないトイレや看板の整備をしてほしい。
- (2) 来年の伊勢志摩サミットを亀山市の知名度アップの機会として捉え、経済活動をしていきたい。
- (3) 市内の公共施設でのイベント開催時等に、名産品や特産品の販売が出来るようにしてほしい。
- (4) 地域ブランド商品の販売に行政が協力してほしい。
- (5) 観光客入込み数の把握と観光関連産業の税収入を市が把握するべき。
- (6) 観光客の呼び込みにパンフレットやホームページの効果は大きいので、視点を変えて、魅力的なキャッチコピーや斬新なデザインを引用するなど、工夫を凝らして作成する必要がある。
- (7) 多数のパンフレットが混在しているので、ベースになるものを市が作成するとよいのではないか。また、外国人観光客への対応として、外国語表記のものも準備する必要がある。
- (8) インターネットが主流になってきているので、市のまつり等のイベントの情報

報発信に十分活用するべきである。また、市内の公共施設での WI-FI 環境を整える必要がある。

- (9) 観光協会では、今後、観光資源を発信・活用する有効手段である「フィルムコミッション事業」に取り組んでいく予定なので、市も積極的に関わってほしい。

【検討結果のまとめ】

教育民生委員会として調査・研究テーマに掲げた「まちづくり観光について」、10回にわたり協議し、検討した結果の課題・問題点は、次の通りである。

1. 市内には、貴重な多くの観光資源があるが、新たな資源の発掘と観光プラン作成の取り組みが不十分なため、関宿以外はあまり観光に結びついていない。
2. 市には、観光客は訪れるものの、対観光客を生業としている商業者が少ないことや着地型観光も整っていないため、滞在時間が短いことから市全体の経済効果は大きくないと思われる。
3. 市の観光は、平成21年に策定した観光振興ビジョンにより、「まちづくり観光」の考え方を基本としているため、現在は市民文化部がその所管をしており、観光を産業と捉えた視点からの施策が弱い。
4. 来訪者を受け入れるに当たり、観光駐車場や歩道、公共トイレ等のハード面の整備が求められている。
5. 市や観光関係団体は、ホームページやパンフレットをはじめ、様々な媒体を通して観光PRに努めてはいるが、シティセールスがそのまま集客にはつながっていない。
6. 市や観光協会における観光コーディネーター機能が発揮されておらず、関係団体間の連携が弱いほか、各組織とも若い人材が不足している。また、市には、よく似た内容のイベントが見受けられるとともに、市主催の事業でさえ日程調整がなされていないなど、オール市役所としての取り組みが実践されていない。

よって、教育民生委員会として、亀山市の観光政策の基本である「まちづくり観光」をさらに推進するため、下記のとおり市長に対し提言を求める。

記

1. 市長のリーダーシップの下、観光関係団体と積極的に連携を図り、「まちづくり観光」を市民に浸透させて市を挙げて観光振興に取り組む気運の醸成に努めること。
2. 観光振興ビジョンの推進のために、各部室が連携を強化し、観光関係団体との

コーディネーター機能を高め、様々な観光資源や団体を結びつけ、多様な人材や専門家を登用して新たな視点による観光資源の発掘や観光プランの作成に努めること。

3. 国・県の制度や補助金を積極的に活用し、観光駐車場、公共トイレ、歩道、案内看板、公共交通、WI-FI 環境等の整備を行い、観光客の受け入れ体制の強化に努めること。

4. 近年の情報化のニーズに合わせ、ホームページによる情報発信の手法を検討するとともに情報量を充実させること。

また、「訪れてみたい、暮らしてみたいまち」と想像をかき立てる魅力ある総合的な観光パンフレットを各関係団体と連携して作成し、積極的な情報発信に努めること。